

メスグロヒョウモン

Damora sagana

兵庫県：要注目

環境省：－

種の概要

前翅長35～40mm程度。♂の表面は橙色と黒斑のヒョウ柄模様で、♀は黒色で白斑がある。
平地から丘陵地の草原や林間の草地、集落周辺の畑地などで見られる。幼虫はスミレ科の植物を食べる。年1化性で、成虫は6月～7月に出現し、盛夏には見られなくなるが、9月中旬～10月に再び現れる。



写真提供：清水哲也

国内分布

北海道、本州、四国、九州、佐度、隠岐

県内分布記録

神戸市、芦屋市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町、加古川市、高砂市、三木市、加東市、西脇市、多可町、小野市、加西市、姫路市、福崎町、市川町、太子町、相生市、赤穂市、上郡町、宍粟市、佐用町、豊岡市、香美町、朝来市、養父市、丹波篠山市、洲本市、南あわじ市

選定理由

人為性		特殊生息環境	学術性		
個体数激減	生息環境激変		分布が極限	分布の限界	希少
○	○				

特記事項

新規追加種

草地が主な生息地で、県全域のほぼ全域に記録があり、県内一円に広く分布していたが、個体数が急激に減少し、ほとんどの生息地で見られなくなった。草原環境の減少、シカの食害による植生の変化などが原因と推定される。

保護上の留意点